



## 株式会社山田養蜂場

### プロフィール

- 社名：株式会社山田養蜂場
- 創業：昭和23(1948)年
- 所在地：岡山県苫田郡鏡野町市場194
- 代表者：代表取締役社長 山田 英生
- 会社概要：①規模：グループ企業としては、国内外に15社  
②グループ年商：566億円(2017年4月期計)  
③グループ社員数：1,558名(2017年6月期)  
④事業形態：ミツバチの飼育及びミツバチ製品の原料仕入れ・  
研究・開発・製造・店舗販売・卸販売  
⑤グループ全体の通販と実店舗(卸・催事含む)の売上割合：  
→通販3：実店舗や催事・卸1



代表取締役社長 山田 英生

### 貴社の創業の精神を教えてください。

#### ●「ひとりの人の健康を守るために」

山田養蜂場の歴史の中で、最も大きな出来事は、創業者である山田政雄の娘「差栄」が、先天性の心臓疾患を持って生まれてきたことでした。「成人するのは難しい。手術に耐えられる体力ができれば考えましょう」との医師の宣告に、父親はなんとしてでも、娘を健康に育てようと心に誓い、あらゆる手を尽くしたのです。ローマ法王ピオ12世が、ローヤルゼリーによって、危篤状態から健康をとり戻したというニュースが全世界に伝わったのも、ちょうどその頃でした。

山田政雄は、娘の健康回復のために、この不思議な力を秘めたローヤルゼリーを、自ら飼育しているミツバチから生産することを決意し、研究に没頭するようになりました。まだ文献なども少ない時代



昭和33年当時、創業者・山田政雄と巣箱



ミツバチのその日の様子を見るため、いつも素手で作業をしていた山田政雄



現社長・山田英生(右)と妹の差栄(左)

でしたが、試行錯誤の末、ローヤルゼリーの大量生産技術を習得することに成功したのです。

ローヤルゼリーを毎日飲用して、14歳まで元気に育った「差栄」は、医師の勧めにより外科手術を行いました。結局は他界してしまいました。手術によって娘が健康になってくれる、と信じていた政雄は、そのショックから何日も、何ヵ月も「手術などさせるのではなかった」と悔恨の涙に暮れました。

しかし、失意の日々を送るうちに「娘のたった14年間は、何のための人生だったのだろうか?」と、自らに問いかけたのでした。そして「ただ打ちひしがれているだけでいいのか、世の中には、様々な病気や障害で苦しむ多くの人がある。その人たちのためにも、自分の飼っているミツバチからの授かりものを、もっと研究して開発する、という使命があることを、娘の差栄は自分の大切な命と引き換えに、教えてくれたのだ」と考えるようになりました。

かけがえのない「ひとりの人のために」作り始めたローヤルゼリーは、このようにして、より多くの「ひとりの人のために」作られるようになったのです。

今日、多くの人々にミツバチの恵みを、健康のために役立てていただけるようになりましたが、最初は娘の健康を願う、素朴な家族愛から作られたものです。「ひとりの人のために」を大切にこの精神を、私たち山田養蜂場は「創業の精神」として、企業活動の原点としています。

山田養蜂場は、これからも「ひとりの人」を大切に、社会の人々の健康を支えるという使命を、果たしていこうと考えています。

## 商品の特徴をご紹介します。

### ● 1人の安全のためにアレルギーのないローヤルゼリーを開発

#### 【酵素分解ローヤルゼリー】

ローヤルゼリーは、タンパク質なので、ごく稀にですが、アレルギーを起こす可能性があります。確率としては極めて小さいのですが、「1人の安全のためにアレルギーのないローヤルゼリーが必要ではないか?」と考え、研究を重ね、酵素でタンパク質をペプチドにまで分解して低アレルゲン化する方法を確立。これには、非常にうれしい副産物もあり、ペプチドまで分解しておく、ローヤルゼリーの消化吸収が飛躍的に高まって、通常のローヤルゼリーにはなかったさまざまな効用が表れたのです。更年期障害の改善と予防、加齢に伴う筋力低下の予防、高血圧やコレステロールの上昇抑制、インスリン抵抗性の予防、骨粗しょう症の予防、美肌効果などの機能性が確認できました。



### ● 天然・自然の良質のもの、そして人様の健康に真に役立てられるものを

#### 【プロポリス】

山田養蜂場が厳選しているブラジル産プロポリスには、ヨーロッパや中国で採取されたプロポリスにはほとんど含まれていないアルテピリンCをはじめとする、がんの予防効果が期待されている桂皮酸誘導体が豊富に含まれています。またプロポリスには、当社などの研究により、「花粉症やアトピー性皮膚炎、ぜんそくによるアレルギー疾患や、かぜ、インフルエンザ、肥満・メタボ、老化・認知症を予防する働きがあることもわかってきております。



## 【蜂の子】

蜂の子は、中国の『神農本草経』にもその存在が記されている数千年の食習慣を持つ健康食材として役立てられてきましたが、そのエビデンスについては、科学的に未だ解明されていませんでした。一方、耳鳴りや難聴に対応する良い医薬品がないため、耳鼻科の医師からの強い要望も受けて、病院との共同研究を続けた結果生まれたのが、当社の「蜂の子」製品です。



## 製品開発はどのような体制で行われているのですか。

### ● 研究開発体制について～必ず効果のある製品を作らねばならない～

自社研究チームと委託研究、共同研究など内外合わせた研究者の数は約300名。山田養蜂場グループ内でも約60名おります。これはミツバチ関連の生理活性作用の研究ということでは、世界一の規模の研究体制になります。

「健康食品の目的は、健康への効果を期待してのはずだ、だから必ず効果のある商品を作らねばならない」という考えから、1990年代の草創期に本格的な研究体制をスタートしました。

## 社会貢献活動への取り組みを教えてください。

### ● 「子を守り育て親の温かい心、愛情」を原点に教育・メセナ活動を展開

食は人の命を支え、健康を作り出すものであり、その食の仕事に携わることは尊いことであるという信念をもって、養蜂から製造・販売の仕事に携わっております。そして、お客様や社会に対して、「子を守り育て親の温かい心、愛情」を当社の従業員が原点にし、それを継承することで、永遠に当社の中に原点がとどまることができるはずだと考えております。

このような想いをもって、約20年前より、事業で生みだされた収入の一部を使って、子供たちや社会的に恵まれていない人たちの支援を行っております。

※具体的な社会活動の一つひとつは、下記HPよりご参照ください。

<http://beekeeper.3838.com/>

## 最後に一言お願いします。

### ● 社会にとってなくてはならない企業を目指して

情報をオープンにして、従業員一人ひとりが経営に参加できる仕組みづくりと、自主的に考えて運営できるようにする組織文化の構築が現在のテーマです。

これこそが、“一人の可能性を信じて個性を活かす”という当社の掲げる人間主義の考え方にも通ずるものと思っております。

当社は今後も、何よりも「社会にとってなくてはならない企業」を目指して進んでいきたいと考えております。

### ● 社長の座右の銘は？

サミュエル・ウルマン「青春」

(担当：徳永)